



鉄のふしぎ? 博物館

69

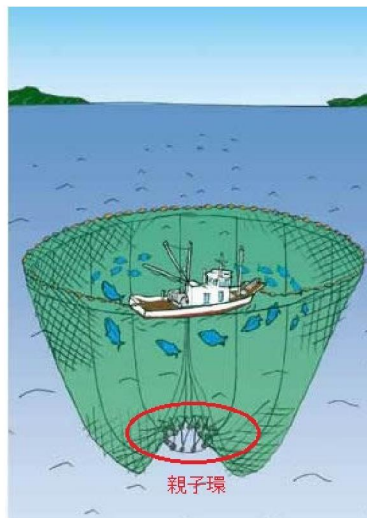
昭和43年(1968年)春、衣川製鎖工業に入社しました。学生時代に就職先の事で悩み、先輩達に相談しました。「他人の飯を食うことが、将来のために役に立つ!」。「職人を雇っている会社は、若い社長候補が現場仕事も出来る。これが重要だ!」二つの意見に集約されました。結局、後者の意見に従い、現場の製造作業から始める事にしたのです。

私は、小学生のころか

「楽しいものづくり 親子環」

画像はカラーと交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長



「まき網」漁法

ら現場仕事をしました。お正月やお盆の小遣は、手伝いをしないと貰えなかったのです。1日〇〇〇円、子どもの出来る仕事はそんなに多くありません。指定の長さに切断された丸棒を炉の側に並べる事。炉に使うコークスを小割して、篩(ふるい)で大小に区分する事。こんな仕事から始まり、丸棒を指定の長さに切断する仕事もしました。中学生のころには、ナット(丸製)の製造も始まり、

毎日タツプでねじ切りです。当時75kg入りの麻袋に入れられたナットを、出荷のトラックに置き場から担いで運びます。職人さんが麻袋の端を跳ね上げて肩に担がせてくれるのですが、ヒョロヒョロとし、腰が定まらず職人さん達に笑われたものです。

『ものづくり』の好きな私は入社以来、現場作業を注意深く見るようになり、その作業は、どうして必要なのだろうかと疑問を抱くようになった。番頭さんが近所の鍛冶屋が大きな丸環をたくさん手造りしているよ。『まき網』といって鯖や鰯を捕るのに

う? 「なぜ、なぜ?」疑問がドンドン生まれて来ました。それを考え先輩の職人さんに「こうしたら良いよ!」などと提案しても、「そうだな!」と同意して、やってみる職人さんはいません。

「そのうち判るよ!」そう言って従前のやり方を変えることは無かったのです。昭和54年(1979年)出張の時、販売先の番頭さん達と、仕事終わりに一杯飲み屋に行くことが増えてきました。私は弊社で出来そうな新しい仕事を探していました。番頭さんが近所の鍛冶屋が大きな丸環をたくさん手造りしているよ。『まき網』とい



「まき網船」

使うらしい。あの丸環やお宅でもっと上手に作れるのでは?

まき網漁法(画像①)

に行きました。ある船頭さんが「一網分サンプルを提供してくれ、大漁やったら採用するよ!」こんな事も言われましたが、数10ヶのサンプルを試用して頂き好評を得て、お客様になりました。しかし、新しい商品を作るようになると、内面が真円に近い・内面に段差がない・ねじれの無い丸環、などなど各種の要求があり、従来の考え方だけでは上手く出来ない事が起こります。親子環の商品化により、治具や工具の工夫がたくさん行われ、結果としては難しい商品に挑戦するキッカケになりました。

【参考資料】▽漁師・お・全国漁業就業者確保育成センター(<http://www.ryoushi.jp/gyogyou/>)